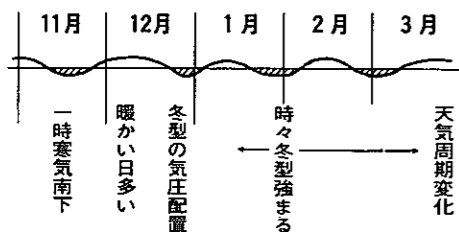


平成2年度 除雪計画

雪の季節を迎えました。北陸地方3カ月予報では、12月は平年に比べて穏やかな日が続きますが、1月は寒暖の変動が大きく、一時大雪の恐れがあるとのこと。降雪量は12月までは少なく1、2月は平年並みという予報です。

市では今年も除雪計画を立て、冬場の市民の足と、生活道路の確保に努めることにしています。それによると、本年度市が除雪する市道の延長は、全体の82.6%に当たる266.4km。ロータリー除雪車をはじめとする除雪車両の充実も図っています。さらに市道のほかに、国道は建設省が、県道は新潟土木事務所が除雪します。歩道の除雪は国、県分を含めると、昨年よりも4.1km多い29.5kmを実施します。

〈3カ月予報のおおよそのイメージ〉



ご協力をお願いします

除雪作業を進めるに当たっては、市民の皆さんから特にご協力をお願いしなければならないことが幾つかあります。

①路上駐車、路上放置はしない

特に雪の降り始めは、たかをくくりがちです。1台の車のために大勢の人が迷惑をします。路上駐車、路上放置はやめましょう。

②ゴミ、し尿の収集にご協力を

雪のためにゴミ収集車が通れない区域は運行が可能になるまで、自宅で保管してください。年末はし尿のくみ取りの申し込みが殺到します。早めに業者に申し込みましょう。作業がスムーズにできるよう、くみ取り口付近の除雪をお忘れなく。

③消火栓付近の除雪にご協力を

冬の間、最も心配されるのは火災の発生です。消火栓付近の除雪など、消防水利の確保に努めましょう。

④除雪した道路に雪を出さない

せっかく除雪したばかりの道路に雪を投げ出す人がいます。自動車がスリップするなど、大変危険です。玄関口をふさいだ雪は、玄関わきに積むなどのご協力をお願いします。

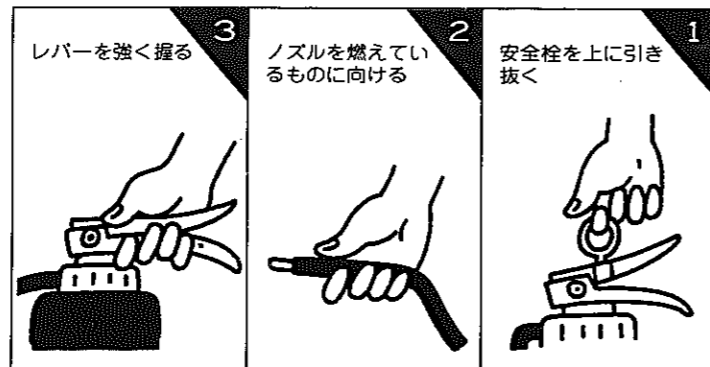
□除雪についての連絡・問い合わせ 建設課 (☎373-2111 ⑤493, 494) へ



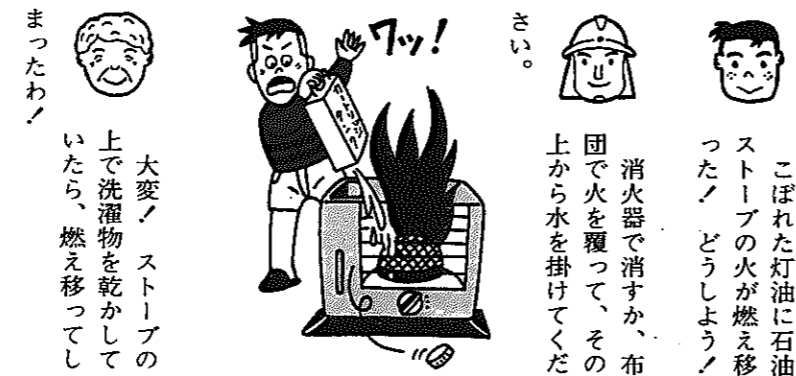
- ▲消火器での火の消し方のこつは
- ①火を怖がらず、なるべく火元に近づいて消火すること
 - ②煙や炎に感わされず、火元に向かって噴射すること

消火器を上手に使えるかしら？

ふだんから使い方を覚えておくことが大切です。火を見てから使用方法を読んでいるのは遅すぎます。気が動転すると、いつもなら何でもないことでも、なかなかまくいかないので。



〔粉末消火器の使い方〕



こぼれた灯油に石油ストーブの火が燃え移った。どうしよう！

消火器で消すか、布団で火を覆って、その上から水を掛けてください。

障子やふすま、カーテンが燃え出したら？

消火器で消すか、水を掛けます。燃えている少し上のほうから消火した方がいいでしょう。カーテンの場合、燃え広がらないように、引きずり落として消火した方が消しやすいこともあります。

□以上、問い合わせは白根地区消防本部 (☎372・3111) へ

火の用心

天ぷらで 家まで揚げた!?

もし、わが家から火事が出たら…。大切な財産ばかりではなく、人の命がその火事で奪われたら…。考えるだけでもいやですね。どんなに用心しても、絶対に火事起きないとはいえません。出火原因の上位を占める天ぷら油火災と、消火器の取り扱いなどについて、10月30日に行われた1日消防署長・署員の訓練風景とともにまとめてみました。



炎が大きくなってふたができません。このままでは火事になる！

とにかくガス栓を閉めて消火に当たりましょう。もしガス栓を閉めるのが無理なら、消火を先にします。消火の方法は、消火器を使うか、ぬらした絞ったシートをなべに覆うようにかけます。

消火器は、強化液の家庭専用消



大変！天ぷらなべから炎が！ どうしたらいいでしょう？

慌てずに、まずガス栓を閉めて、なべの前方から炎を押し寄せないようにふたをします。絶対に水を掛けたり、ぬれた野菜を投げ込んだりしないように。少量の水でも、油が飛んだり、炎が大きくなって危険です。また、すぐにふたを取ると、再び燃え出すことがあります。十分注意しましょう。



ぬらしたシートで火を消す方法は？

- ①やけどをしないように大きく広げ、両端を手にかぶせるようにして近づいてください。
- ②前方、少し下の方から炎を覆うようになべにかぶせます。シートをなべの回りに押し付けて火を消し、ガス栓を閉めてください。
- ③油飛び防止の天ぷらガードを使っていた場合は、その上からすっぽりかぶせましょう。
- ④なべをひっくり返さないように注意してください。
- ⑤いったん火が消えても、すぐにシートを取ると再び燃え出すことがあるので、ぬれたぞうきんなどでなべの周囲から冷やしましょう。



4 消えたといったら安心は禁物。飛火点に達した油は空気に触れると再び発火する恐れも。周囲から冷やし、油の温度を下げよう



4 ぬらしたシートでなべを覆うように。不用になったシートなどで防火布を作っておくのもいい